

技能者の育成により業界の活性化を

～技能検定試験に向けた事前講習会を開催～

労働者の持つ技能を検定し公証する技能検定制度では、国家資格である126職種の技能士が全国で延べ632万人、山梨県で28,000人がおり、うち型枠施工技能士は県内に108人いる。

山梨県型枠工事協同組合(中込明彦理事長)は、11月11～12日の2日間、中小企業人材開発センターで技能検定試験に向けた事前講習会を開



組合員企業の一級技能士の講師から技能検定試験のポイントを学ぶ

催、組合員企業5社から1級及び2級の受験予定者15名が参加した。

講習会では、組合員企業の1級型枠施工技能士が講師となり、技能検定試験の概要説明を行った上で、組合員企業の技能士2名がサポートに加わり、原寸図の作成や材料の加工、型枠の組立作業、完成品の検査などの実技試験のための実習を行い、ペーパーテスト対策も行った。参加者全員が初めての試験に臨むことから、試験のポイントや留意点についての説明とアドバイスをもとに熱心に取り組んだ。

建設業界は技能者の人材不足が特に顕著な業界で、専門技能の事業所内での伝承が課題となっている。中込理事長は、「型枠工事は、コンクリート構造物の工事になくてはならない業種であり、1現場に1人の1級技能士を配置しなければならない時



実技講習では、組み立て作業を行った

代がすぐそこまで来ている。技能士及び若手人材の育成は各企業だけでなく業界にとって喫緊の課題となっている。高い技術や知識を持って責任ある仕事に取り組む人材が増えることで、業界の労働環境の向上や新規入職者の増加につなげていきたい。」と語った。3年前にも実施し、受講者から高評を得た組合主催の講習会が型枠業界の人材育成の一助となることを期待している。